

みずしるべ

しるべ情報



新丸山ダムのキャラクター しんまるくん

発行
建設省中部地方建設局
新丸山ダム工事事務所

9

INFORMATION
建設省新丸山ダム工事事務所は地域の皆様や関連する方々との情報ネットワークとして情報誌「みずしるべ」を発行しております。
今号は、「洪水がおきるまで」をテーマにしました。今後も内容をますます充実させていきたいと思っております。ご意見・ご感想がございましたらぜひお寄せ下さい。



五宝滝
高さ80mにおよぶ壮大な滝。秋は紅葉狩、春は山菜とりと四季を通じて楽しめるハイキングコースとしてにぎわいます。

新丸山ダム概要
新丸山ダム建設事業は、木曾川本川が濃尾平野に流れ出る手前の峡谷に設置されている丸山ダムを大規模に嵩上げして、洪水調節能力を大きく向上させようというものです。
我が国あるいは世界で大きな役割をになっている中部圏を支え、更に発展させてゆくための基盤施設として、木曾川の新たなカナメとして生まれかわる新丸山ダムは、極めて大きな役割を果たすこととなります。

川を遡って運ばれた生活物資 兼山湊跡

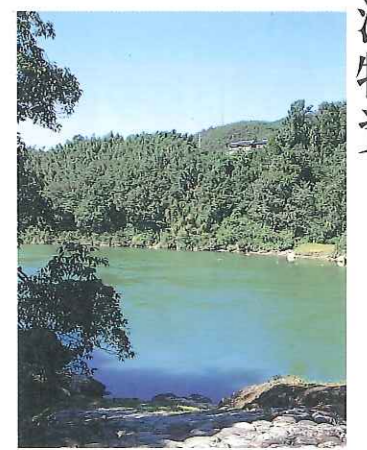
八百津町のお隣りにある兼山町は、かつて木曾川上流唯一の商港として栄えました。今は上流にダムができ、木曾川は穏やかで悠々とした表情をしています。かつてはゴウゴウと音をたてて流れる急流でした。この急流を利用して木曾谷の木を流し、6キロ先の八百津でいかに組んで運搬していました。



▲兼山湊跡

今から400年前、森一族がこの地をおさめていた時代には、農作物や酒、陶器などを大山、笠松、桑名まで船でくだし、帰りは木曾川の流れをさかのぼって塩や海魚、日用雑貨品を運んでいました。森氏は塩問屋などに専売権をあてたり、月に6回開かれる「六斎の市」を開くなどして、兼山を湊町・城下町として繁栄させました。また、武器も荷揚げされ、兼山湊は商業はかりでなく軍事上の要地としても重要な役割をはたしていました。のちに、森氏が信州の中島城主となり、無城主となった金山城を大山に移築する時も、取り壊した天守閣や御殿などをいかに組んで兼山湊から運搬したともいわれます。

湊は出船、入船でにぎわい、船荷相手の宿屋、



▲木曾川(兼山町)

飯屋、馬屋がところせましとひしめいていました。町には職人が暮らす職人町や呉服などをあつかう豪商の邸宅、船頭屋敷などがあり、沖仲士や商人などで活気にあふれていました。様々な物資や食料品が湊に集まり「兼山に行けば何でもそろそろ」とまでいわれていたそうです。
こうして中山道、木曾路と濃尾平野の木曾川下流とを結ぶ重要な拠点として栄えた湊も、鉄道の発達によってしだいに衰退していききました。現在は、湊跡に灯台の役割をしていた常夜灯と水ぎわから敷かれた石畳がかすかに当時の面影を偲ばせています。

参考資料◆兼山町教育委員会 『史跡兼山湊抄録』

水と昔話 お不動ヶ淵の鯉

恵那市

むかし、恵那市佐々良木のお不動さまの近くにお寺があつて、和尚さんがひとり住んでいました。たうたひとり話し相手がないので、「だれか、話をしてくれる人はおらんもんじゃない」とひとりごとをいっては、さみしがつていたそうです。
ある晩のこと、腰の曲がった品物のいいおじさんがやつてきて「ちよつと火にあたらせてもらえんかね」と頼みました。和尚さんは話し相手ができたことを喜んで、おじさんをお願いのそばに案内しました。そして、二人は夜が明けるまでいろんな話をしました。それからというもの、おじさんは毎晩、話をしにやつてきました。和尚さんはうれしくてお礼をするにやめました。



さて、その晩はごちそうを囲んで、とてもにぎやかなになりました。けれど、どうしたところか、おじさんがみそをなめたときに顔色が青くなつて、ものもいわずに帰ってしまったのです。
次の朝、和尚さんは権兵衛さんの声で目をさました。「おつさま(和尚さん)、お不動ヶ淵にいかい(大きい)こいが死んでるぜ。見にいっておくれんさい」
権兵衛さんと一緒にいってみると、なるほど大きなこいが水の上に浮いていました。そして、こいの口のまわりに、夕べおじさんが食べたみそが、ちよつとちよつとついていました。
「そうか、あのじよつさまは、このこいじよつたのか」
和尚さんは、からだがかくかくするほどびびりしましたが、なにもいわずにそのこいを持って帰り、お墓に埋めてお経を読んでやったということです。

参考資料◆東濃地方の昔話

建設省中部地方建設局
新丸山ダム工事事務所
〒505-03
岐阜県加茂郡八百津町八百津3351



もしもしテレフォン
新丸山ダムについてどんな事でもお気軽にお問い合わせ下さい。
0574-43-2780(代)

どうして洪水がおきるの？



洪水がおきるまで



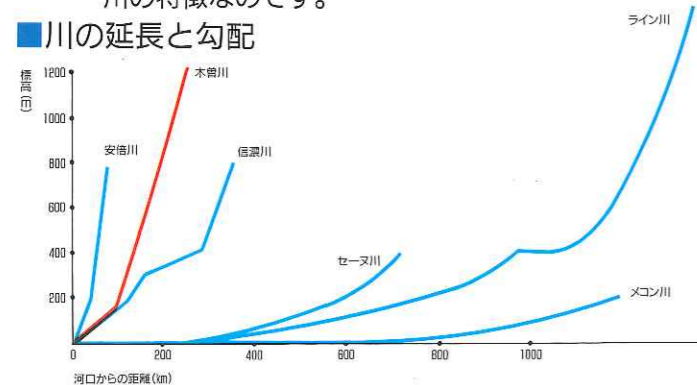
洪水から人々のくらしを守るために新丸山ダムは作られます。

より安全に・よりよい発展のために長期的な展望に立って新丸山ダムの建設が始まりました。昭和58年9月、美濃加茂市・坂祝町一帯を襲った大洪水は記憶に新しいことでしょう。新丸山ダムが完成すれば、このような洪水を防ぐとともに、私たちの生活がいちだんと豊かになっていくのに役立ちます。

2 日本の川は滝のよう

下のグラフを見れば、世界の川と比べて日本の川がどれくらい急かわかります。“せまい・急・短い”が日本の川の特徴なのです。

川の延長と勾配

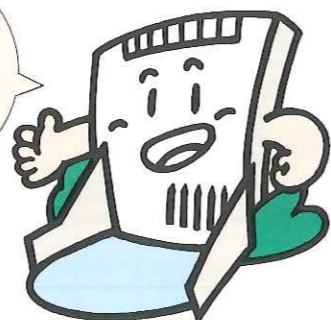


4 日本の風土には、ダムによる洪水調節がピッタリ

ダムで一時的に水をため、下流への流量を減らせば川のはんらんが防げます。

新丸山ダム諸元
 高さ 122.5m(98.2m)
 長さ 382.0m(260.0m)
 湛水面積 3.87km²(2.63km²)
 ()丸山ダム

洪水調節で暮らしを守ります。

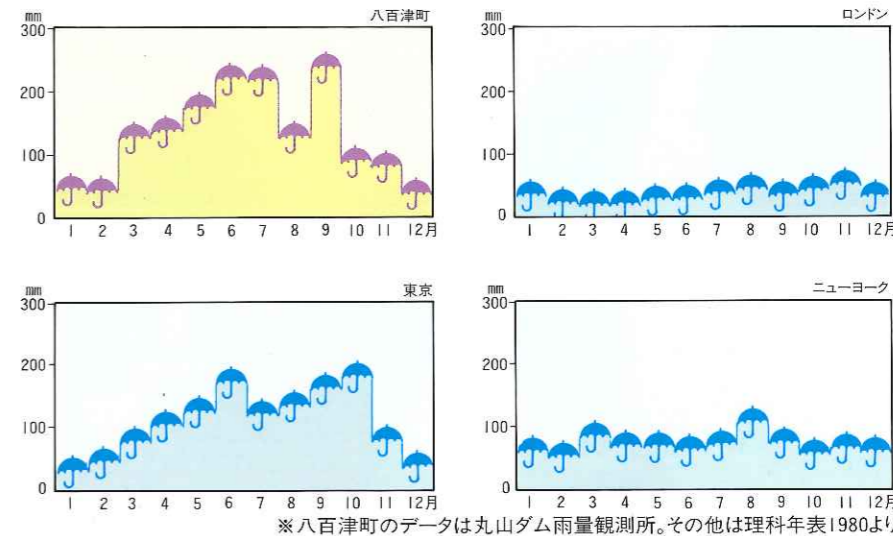


1 日本はとっても雨が多い国

日本に雨が多いのは、梅雨や秋雨があったり、台風の通り道になっているからです。下のグラフを見れば、世界の主要都市と比べて日本の雨がどれだけ多いかわかりますね。



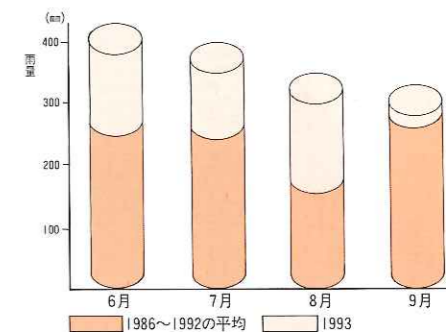
日本と外国の月別平均降水量の比較



雨の多かった今年の夏

かつてない冷夏、晴れた日など数えるぐらいで、雨ばかり。今年が、いつもに比べてどれくらい雨が多かったか。

*データは、丸山ダムの雨量観測所による

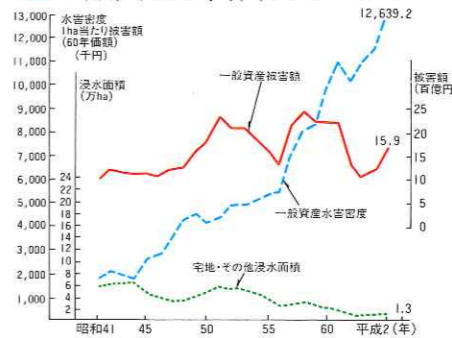


3 洪水がおきると被害が大きい日本の川

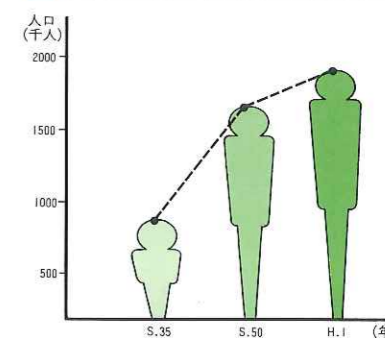
河川がはんらんする地域は国土のほんのわずかな区域。ところが、その区域に人口や資産のほとんどが集まっているため、洪水がおきると大災害をまねくのです。



一般資産水害密度等の推移



木曾川想定氾濫区域の人口



●新丸山ダムは、高さ122.5mで嵩上げダムとしては日本最大。洪水調節、流水の正常な機能の維持、発電を目的に建設する多目的ダムです。

新丸山ダムトピックス

楽しさいっぱい!!

八百津町産業文化祭に新丸山ダムも参加

地域のイベントとして親しまれている八百津町産業文化祭に、くらしと土木の週間・土木の日の記念イベントとして、第1回新丸山ダムふれあい広場を開催します。

「人に自然にやさしいダムづくりを目指して」テーマに、地元の方々とのふれあいを通して、楽しみながら新丸山ダムへの理解を深めていただくことと催されるものです。

開催日

11月13日(土)・14(日)

会場

新丸山ダム工事事務所 1Fロビー・駐車場

主な催し物

- ちびっ子広場
- 建設機械リフト車で空中遊泳
- ねんど細工コンテスト
- 新丸山ダム模型・パネル展示
- 河川情報コーナー
- ぬいぐるみ・風船
- 遊びながら学ぶ・土木ものしりクイズ



くらしと土木の週間11月18日～24日 11月18日は「土木の日」です。

ダムにはこんな働きも!!

丸山ダムが大量の流木をせき止める

丸山ダムには、7月14日の大雨などによる出水により、約5,000m³もの流木が漂着しましたが、ダムにより下流への流下が防止され、下流域の災害防止に貢献しました。

これらの流木は、早急に除去し、近くの温水プールの燃料に利用していますが、他の有効な利用方法等も検討しています。

出水による流木状況



新丸山ダムをつくるためにはこんな道路が必要です

ダムを建設するためには、準備として道路整備が必要です。これは水源地域の生活に、より密着した関心の高い道路計画なのです。

新丸山ダムを建設するために必要な道路整備の長さは約50km。現在は道路を造るための土地を買ったり、工事を行っています。

ここでは、ダム事業を進めるために必要な2種類の道路『付替道路』と『工事用道路』の説明をします。

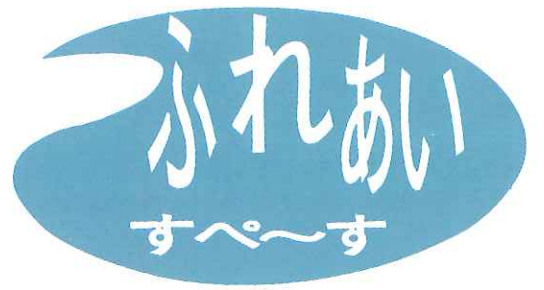
付替道路

ダム建設によって現在の道路が水没する場合に、その替わりとして設置する道路のこと。道路の用地はすべてダム事業で買い取ることができ、完成後は道路管理者(県・市・町)が維持管理します。

工事用道路

ダム本体や付替道路の工事によって、工事期間中に一時的に使用される道路のこと。工事終了後は、原形復旧等により地権者に返却します。ただし、工事が終わった後も地元にとって有効に利用できる道路なので、事前に地元との打ち合わせにより、将来、市町に引き渡すこともあります。





木曾川の激流をみごとに治めた「電力王」

わが国最初の ダム式水力発電所をつくった 恵那峡の父 福沢桃介

自ら現場に向いて大井ダムの建設にたずさわる。



▲大井ダム・ダム湖

四季折々に変化する自然美に魅せられ、一年中観光客でにぎわう恵那峡。ここに、おだやかな湖面を見守るように「福沢桃介翁」像が建っています。恵那峡は、すぐ下流の大井ダムによつてできた湖ですが、以前は深い溪谷を流れる急流でした。これをみごとに治め、わが国で最初のダム式水力発電所「大井ダム」を完成させたのが福沢桃介なのです。



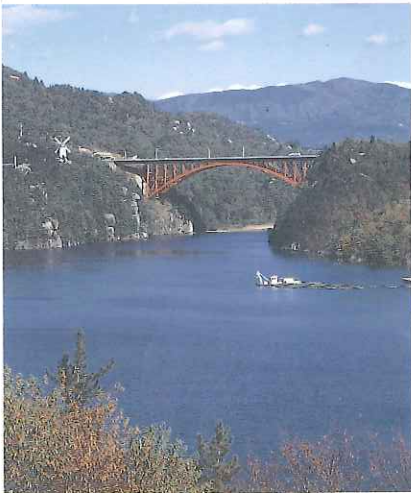
桃介は、明治元年に埼玉県の農家に生まれました。幼いころから活発で成績抜群だった桃介は、その才能を福沢諭吉に認められて養子となり、娘と結婚しました。

明治37年に日露戦争が勃発すると、持っていた株が急騰して莫大な財を手に入れます。これがきっかけとなり、大正9年に大同電力を発足させ、発電所建設に力を注ぐようになります。木曾川の豊かな水流に目をつけていた桃介は、わらじばきで谷を渡り、山を越え、発電所建設の調査を進めました。そして、大正10

年に大井ダムの建設をはじめたのです。現場には、のべ120万人の作業員が動員され、恵那の町は活気に満ちたといえます。桃介は危険な現場に自らおもむき巨額の資金とたくさんの人員を動員して、工事にあたりました。こわがつてだれも近づこうとしない谷底へ、ロープを使っており、作業員の士気をふるいたたせたり、まだ珍しかったブルドーザ

ーや資材運搬用のロープウェイなど、アメリカの技術や機械を次々に導入して人をおどろかせたなど、数々の逸話を残しています。こうして、昭和12年に永眠しましたが、大井ダムを初め、木曾川水系にいくつもの水力発電所を建設した彼の名は、「電力王」として今に語り継がれています。

資料提供 ◆ 恵那市役所商工観光課



▲恵那峡

いべんと インフォメーション



恵那市

- 11月3日 ● メモリアルマーチへ恵那・岩村ハイキング (恵那駅出発)
- 14日 ● 農業祭(恵那市民会館・ふるさとふれあい広場)
- 1月7日 ● 七日福市(大井町・市神社)
- お問い合わせ 恵那市役所(05773) 261211

八百津町

- 11月13・14日 ● 産業文化祭(八百津町ファミリーセンター)
- 1月30日 ● 八百津町剣道大会(八百津小学校体育館)
- お問い合わせ 八百津町役場(05774) 431211

瑞浪市

- 11月23日 ● 農業祭(瑞浪市役所前・樽上球場)
- 1月5日 ● 岩谷不動五日えびす(明生町・清来寺)
- お問い合わせ 瑞浪市役所(05772) 681211

御嵩町

- 11月3日 ● 第5回御嵩ウォークラリー大会 (御嵩・南山公園野球場)
- 1月1日 ● 迎春の会(御嵩城跡)
- お問い合わせ 御嵩町役場(05774) 671211